

令和7年度 大分県 英語教育改善プラン

児童の英語力を育成し、魅力ある授業づくりを推進する教員の指導力の向上

目標

- 言語活動
 指導と評価の一体化
 教師の英語力・指導力
 校種間連携
 ALTの参画
 ICTの活用
 AIの活用
 その他
- (パフォーマンステスト含む)
 (専科教員含む)
 (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①英語教育に関して、中学校と連携する小学校の割合が高い。

(R5:県:91.4%、全国:82.8%)

②「英語が好き」と回答する生徒の割合が増加した。

(R5:64.8%⇒R6:65.8%)

未だ改善が必要な点

①言語活動を通して目指す資質・能力を確実に育成することについて、改善の余地がある。

②県内の半数以上の児童が、家庭学習においてICT機器を使用して、英語の音声を聞いたり英語を話す練習を行っていない。

(R5:県:53.2%、全国:49.5%)

2. 要因分析

①大分県教育課程研究協議会における「改善の重点」のテーマに設定したり、小学校の協議会に中学校教員が参加したりしたことにより、授業改善が進みつつある。

②APU（立命館アジア太平洋大学）の留学生との交流事業を活用する等、児童が「やってみたい」と思えるような、相手意識や目的意識を大切に言語活動が充実してきている。

①具体的な児童の姿を想定した上で評価規準を設定しておらず、努力を要する状況にある児童に十分な手立てが講じられていないことが要因と考えられる。

②授業における効果的な学習者用デジタル教科書の活用についての理解が不足しているため、家庭学習での活用にまでつなげることができていないと考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①小中の学びをつなぐ英語教育の更なる推進

- ・「未来を創る授業力向上協議会（小・中）」を実施し、学習指導要領の趣旨の実現や授業改善を図る。
- ・令和7年度も、小学校の協議会に、中学校教員を参加させ、小中連携を推進。

②留学生との本物のコミュニケーションによる学習意欲の向上

- ・英語を学ぶ意欲の向上を図るため、希望する学校を対象に、APU留学生との交流を行う。
- ・教員には単元を見通して魅力ある授業を構想できる力の育成につなげ、児童には単元のゴールで実際に英語を使って外国の方とコミュニケーションができる楽しみにつなげる。

①大分県教育課程研究協議会における「改善の重点」

- ・小学校英語教育の課題を焦点化し、各市町村に対して授業改善の視点（改善の重点）を周知。
- ・「学習評価の充実」と「小中連携の推進」をテーマに、各市町村の代表者が12月の協議会で取組を報告する。

②ICTの効果的な活用の推進

- ・県内の全英語専科教員が参加する小学校英語専科教員協議会や「未来を創る授業力向上協議会」の協議等において、ICTの効果的な活用について情報提供していく。

令和7年度 大分県 英語教育改善プラン

生徒の英語力を育成するための指導と評価の改善

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R6 : 44.0% ⇒ R7 : 50.0%)

目標

- 言語活動
 指導と評価の一体化
 教師の英語力・指導力
 校種間連携
 ALTの参画
 ICTの活用
 AIの活用
 その他
- (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①「英語が好き」と回答する生徒の割合が増加した。
(R5:44.6%⇒R6:45.9%)

②英語の授業等においてICT機器を活用する割合が増加した。
(R5:29.5%⇒R6:38.8%)

未だ改善が必要な点

①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合が減少した。
(R5:45.0%⇒R6:44.0%)

②学力調査において、低学力層の割合が増加した。
(R5:33%⇒R6:38%)

2. 要因分析

①協議会において、指導教諭による授業動画を用いた説明・協議や文部科学省調査官による講義等を行うことにより、生徒が魅力を感じるような単元設定の重要性について周知したことで、授業改善が進んできている。

②協議会や授業参観等において、ICT機器を効果的に活用した授業動画を紹介することで、学習者用デジタル教科書等の活用の効果と重要性について現場の理解が図られてきている。

①学習指導要領の趣旨に基づいた授業づくりについて理解した上で、知識及び技能の着実な定着と低学力層の底上げ等が必要である。

②中学校において、小学校からの学びを意識した指導についての理解が不足しており、中1の段階から低学力層が固定化していると考えらえる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①指導と評価の改善

・学習指導要領の趣旨に基づいた授業づくりや、特に指導と評価の一体化についての理解を促進するため、中学校英語指導力向上協議会において、国立教育政策研究所の学力調査官による講義を実施する。

・APU（立命館アジア太平洋大学）の学生とオンラインや学校で交流し、教員には単元を見通して魅力ある授業を構想できる力の育成につなげ、生徒には単元のゴールで実際に英語を使って外国の方とコミュニケーションができる楽しみにつなげる。

②学習者用デジタル教科書やAI等のICT機器の活用の推進

・AIや学習者用デジタル教科書の効果的な活用等について周知するため、各種協議会や授業参観において、具体的な活用例とともに紹介する。

①中学校英語科教員の英語指導力の向上

・各市町村教育課程研究協議会における授業研究会に県の指導主事が参加し、指導助言をするとともに、中学校英語教育の課題解決のための講義を行う。

・県内全ての中学校2年生に民間テスト（英検IBA）を実施し、生徒の英語力を経年で比較し、成果や課題を把握した上で授業改善を図る

②小中連携の更なる推進

中学校において、小学校からの学びを意識した指導を促進するため、小学校教員を対象とした「未来を創る授業力向上協議会」に中学校英語科教員も参加し、小学校における外国語活動及び外国語科の学習内容や指導方法についての理解を深める。

令和7年度 大分県 英語教育改善プラン

生徒の実践的コミュニケーション能力を育成するための 即興性を重視した言語活動の充実とパフォーマンステストの改善

目標

○CEFR A2レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R6 : A2以上 49.5%、B1以上 16.0% ⇒R7 : A2以上 54.0%、B1以上 20.0%)

言語活動 指導と評価の一体化 教師の英語力・指導力 校種間連携 ALTの参画 ICTの活用 AIの活用 その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ① S/W両方のパフォーマンステスト実施率は改善傾向。
(R4:45.1%⇒R5:49.8% ⇒R6:63.4%)
- ②CEFR A2レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合が改善傾向。
(R4:45.9%⇒R5:49.9% ⇒R6:49.5%)

未だ改善が必要な点

- ①依然として授業における生徒の英語による言語活動を充実させることに改善の余地がある。
(R6 : 44.4%)
※授業における生徒の英語による言語活動が、授業の半分以上と回答した学校の割合
- ②英語で行う授業を一層促進する必要がある。
(R6:32.9%)
※教師が発話の半分以上を英語で行っている学校の割合

2. 要因分析

- ①②多様な評価場面を設定し、パフォーマンステストを含む様々な評価方法で生徒の力を見取ろうとするなど、教師側の姿勢と取組に改善が見られた。

①身に付けさせたい力に基づいた指導と評価の単元計画を立てること、目標達成に向けて連続的・計画的・系統的に、適切な言語活動を実践することに改善の余地がある。

②授業中、教師が日本語で説明する場面が依然として多く、生徒が英語でコミュニケーションを行うことに挑戦できる環境を整備することと英語によるコミュニケーションをはかる機会を最大化することに改善の余地がある。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①②観点別評価やパフォーマンステストの実践事例の共有
 - ・学習指導案、ワークシート、教材、パフォーマンステストなどを全県の英語科教員が共有できるフォルダを作成し、教員の自律的な授業改善を促進する。
 - ・生徒の英語力に対する即時・同時評価や、生徒個人への適切なフィードバックによる支援など、AIの効果的な活用事例を発信する。
- ①英語科における「探究的な学び」の推進
 - ・授業研究会において、英語科における「探究的な学び」の在り方について協議する機会を設定する。
 - ・推進チームを中心に「探究的な学び」を実現する言語活動について研究し、公開授業等を通して共有する。
 - ・県教育委員会作成のハイレベル動画コンテンツを活用し、授業改善への取組を促進する。
- ②ワークショップ型研修の実施
 - ・講師の英語によるモデル授業を受け、生徒に身に付けさせたい力に基づいた言語活動の在り方や、ファシリテーターとしての教師の役割に対する理解を深める。
 - ・モデル授業に基づいたパフォーマンステストを作ったり、協議を行ったりして、自校のパフォーマンステストの質向上につなげる。

大分県教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	50	49.9	52	49.5	54		56		58		
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	16	17.8	20	16.0	20		22		23		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	55	42.5	55	44.4	60		65		70		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	50	49.8	54	63.4	56		58		60		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	80	42.6	80		80		80		80	
		達成状況の把握(%)	80	70.2	80		80		80		80	
⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	85	88.1	89	85.4	89.5		90		90.5			
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	50	30.4	55	32.9	60		65		70			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	50	45.0	50	44.0	50		50		52		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	75	77.5	80		81		82		83		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	90	86.5	90		91		92		93		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	70	83.6	85		87		90		92	
		達成状況の把握(%)	85	100	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	50	44.5	52	50.5	55		57		60		
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	80	60.2	65		67		70		72			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100
		公表(%)	50	70	75		80		85		90
		達成状況の把握(%)	80	96.4	100		100		100		100